

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年八月度 入選句（投稿総数二千九百二十八句・一般投句数六百五句）

特選

新涼や木々に添へある由緒札

養老郡養老町 田中 秀子

新涼は秋になつて感じる爽やかな涼気。夏の峠を越えた安らかさを感じさせる季語に、木の由緒札を取り合せた。木にも生命があり歴史がある。由来を知ることにより、木に対する理解や愛情が深まる。それぞれの木の個性も分る気がする。

しばらくは風に身を置く夜の秋

大垣市 北浦 典子

夜の秋は晩夏の夜になると、日中は暑くても、気温が下がり風もでてきて、どこことなく秋を感じることをいう。今年は残暑（秋季）が厳しく、涼しさを実感できなかったが、この句は、夜の秋（夏季）の気分がよくでている。

深く沈みて座布団の生身魂

大垣市 佐藤 すみ子

生身魂は、死者だけでなく生きている年長者の健康と長寿を祈つて、ご馳走したり物を献じたりすること。また、その年長者をいう。座敷の真中に置かれた大きなふわふわの座布団、その上にちよこんと座つた小柄な人の姿がイメージされ面白い。

秀逸

七夕飾り潜り訪ひけり結びの地

東京都練馬区 斉藤 明子

人の世に恋というものの夏の浜

大垣市 多和田 一徳

七夕や密かに抱く夢の数

不破郡垂井町 児玉 信子

腰に鈴付けて加わる滝めぐり

大垣市 棚橋 みさを

炎昼や風も動かぬ石の庭

揖斐郡池田町 五十川 直靖

昼寝覚め嬰兒に顔をのぞかるる

大垣市 傍島 隆

簾椅子に双子ねむれり臍出して

安八郡輪之内町 野村 照子

古戦場どの道ゆくも青田風

安八郡神戸町 高橋 日出美

ほめられて紫陽花又も切られ行く

大垣市 久富 キヌエ

万緑やおんころころと懺悔坂

不破郡垂井町 江崎 真一

入選

バス停の小さき片蔭譲りあふ
虫干の暮しの手帖読み耽ける
粋がつてをらぬと思ふサングラス
お代わりのカレーライスや梅雨寒し
軽トラの窓から足を三尺寝
わらびもち買って娘の嫁ぎ先
信長の山城かくす男梅雨
水饅頭水都の水を惜しみなく
誰も居ぬ野外ステージ蟬時雨
あれもこれも過去となりけり昼寝覚

大垣市	末守 節子
大垣市	秋山くに子
大垣市	日比野 友子
大垣市	鶴田 信子
大垣市	森川 きよ子
京都府宇治市	椎原 園美
愛知県岡崎市	杉浦 よ志子
愛知県岡崎市	瀬古 陽苑
大垣市	佐竹 余史美
大垣市	後藤 喜美男

入選

遠雷や亀はきりりと首伸ばす
青梅の産毛はじける今朝の雨
海の日のレストランマツトブルーにす
でで虫の湊へ急ぐ石畳
白南風を受けて道筋変へて見る
炎昼と真つ向勝負甲子園
うたたねの風鈴の音なりやまず
本堂に和尚大の字大昼寝
大役を終へ大の字の大昼寝
風鈴の音は宵風の思うまま

愛知県名古屋市	加島 照子
大垣市	傍島 豊子
大垣市	棚橋 みさを
愛知県岡崎市	鈴木 明美
岐阜市	富永 萬里
大垣市	澤井 国造
大垣市	松岡 みつ
静岡県藤枝市	山本 紫苑
愛知県岡崎市	鈴木 正紘
福岡県田川郡	成松 義紀

選者吟

夜の秋のひつりく返す砂時計

武直